

2027年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

2026年7月30日

フィード・ワン株式会社

東証プライム 証券コード2060

飼料で食の未来を創り、命を支え、笑顔届ける

決算補足説明資料の内容をより詳しくご理解いただくため、「決算補足説明資料(説明文章付き)」を当社ホームページに掲載しております。

会社紹介動画を制作しました。ぜひご覧ください



QRコードはリンクにもなっております

制作協力：株式会社テレビ神奈川

1Q業績ハイライト … P4

経営方針 … P5

1Q決算概要 … P6～

通期業績予想 … P13

参考資料 … P15～

中東情勢による業績への影響は限定的。収益性重視への転換が進展し、1Qとしては過去最高益を達成

売上高

784億円

前年同期比
+9.0%
業績予想進捗率
24.7%

経常利益

23億円

前年同期比
+26.7%
業績予想進捗率
26.8%

最終利益

17億円

前年同期比
+7.6%
業績予想進捗率
27.1%

売上高

- ・ 畜産飼料事業の価格改定および販売数量微増
- ・ 水産飼料事業における販売数量増加

経常利益

- ・ 養豚・養牛用の新製品拡販等により、畜産飼料事業は増益
- ・ 1Qとして過去最高益を達成

最終利益

- ・ 経常利益の増加を主因として増益
- ・ 通期予想に対しても順調に進捗

当社は畜産飼料事業の特性(P20参照)を踏まえ、売上高利益率ではなく“トン当たり利益”を重要指標としております

◆ 課題と方針の転換

【課題】

飼料産業は「薄利多売型」の装置産業で、
外部環境の変動が収益に直結する構造

「数量拡大型」→「付加価値・ソリューション型」への事業モデル転換

実現ドライバー

- 価値創出・課題解決型の製品・技術によるソリューション提供力の強化
- サプライチェーン最適化による安定供給モデルの確立

◆ 成長戦略 ～付加価値の高い飼料に注力し、“トン当たり利益”※を拡大する～

※セグメント利益(経常利益ベース)

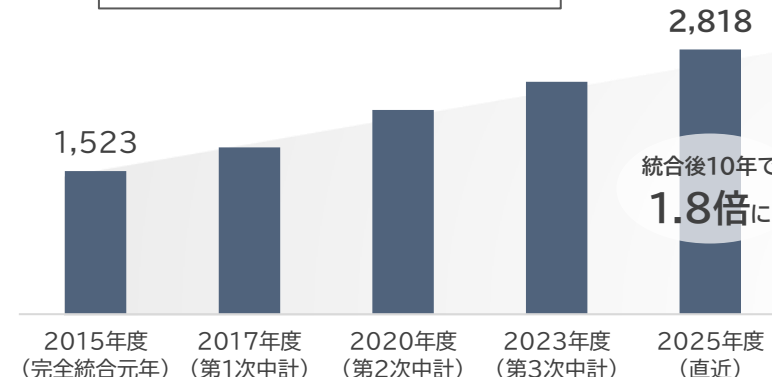
高付加価値化

- ▶ 飼料性能に差が表れやすい製品の拡販
例) 幼齢期飼料や暑熱対策飼料等
- ▶ 飼養技術の提案等による競争優位性向上

調達・製造の改革

- ▶ 昆虫タンパク等の代替原料の活用
- ▶ 製造品目削減や、原料・製品在庫の最適化
による製造コストの削減

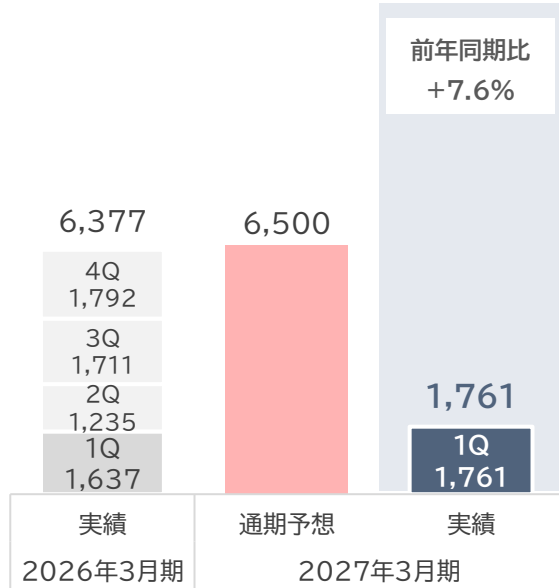
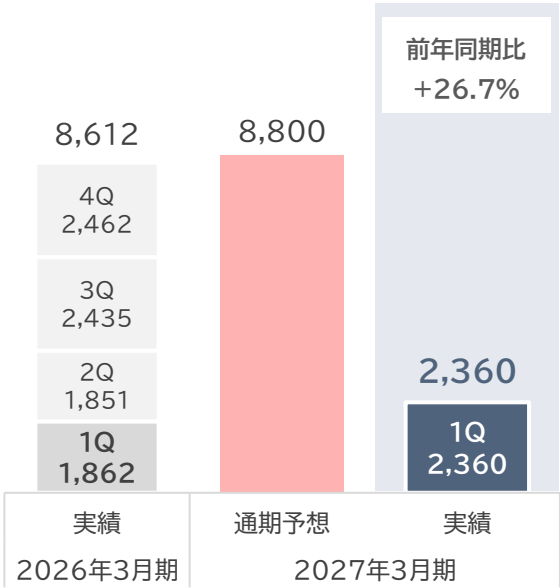
畜産飼料/トン当たり利益(円/トン)



販売数量の増加や畜産飼料の価格改定により増収。畜産飼料事業の収益性改善を主因として増益

(百万円)

	2026.3期	2027.3期		
	1Q	1Q	前年同期比	通期予想 進捗率 (以下、進捗率)
売上高	71,973	78,443	+9.0%	24.7%
売上原価	64,111	69,818	+8.9%	—
売上総利益	7,861	8,625	+9.7%	24.4%
販管費	6,385	6,484	+1.6%	—
営業利益	1,476	2,140	+45.0%	25.2%
経常利益	1,862	2,360	+26.7%	26.8%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,637	1,761	+7.6%	27.1%



「販売数量」から「収益性・資本効率」を重視する経営方針の浸透により、畜産飼料事業が増益

販売数量は水産を中心に増加、EBITDAは畜産の収益性改善が牽引



畜産飼料は豚・牛用飼料の増加により微増
水産飼料は養殖尾数増加等を背景に大幅増



畜産飼料事業における収益性改善を主因に増加
減価償却費は前年同期比+70百万円



計画に遅延なく進捗

※EBITDA: 経常利益+支払利息-受取利息+減価償却費及びのれん償却費

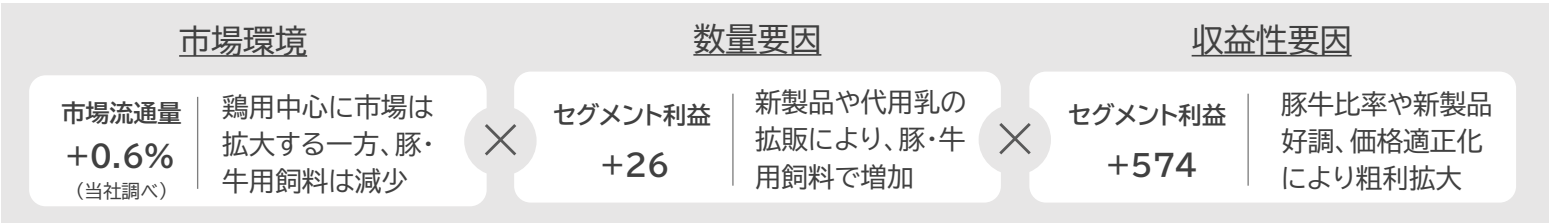
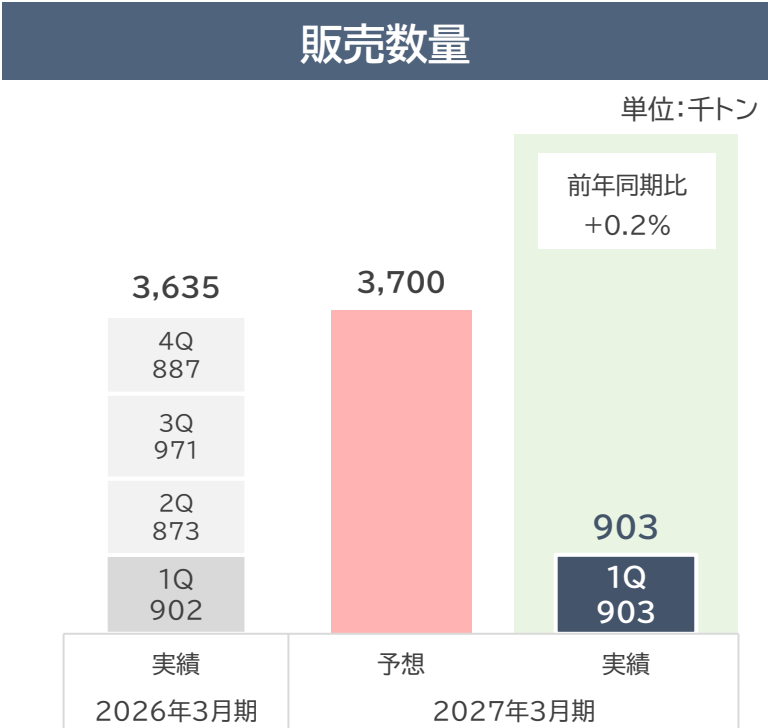
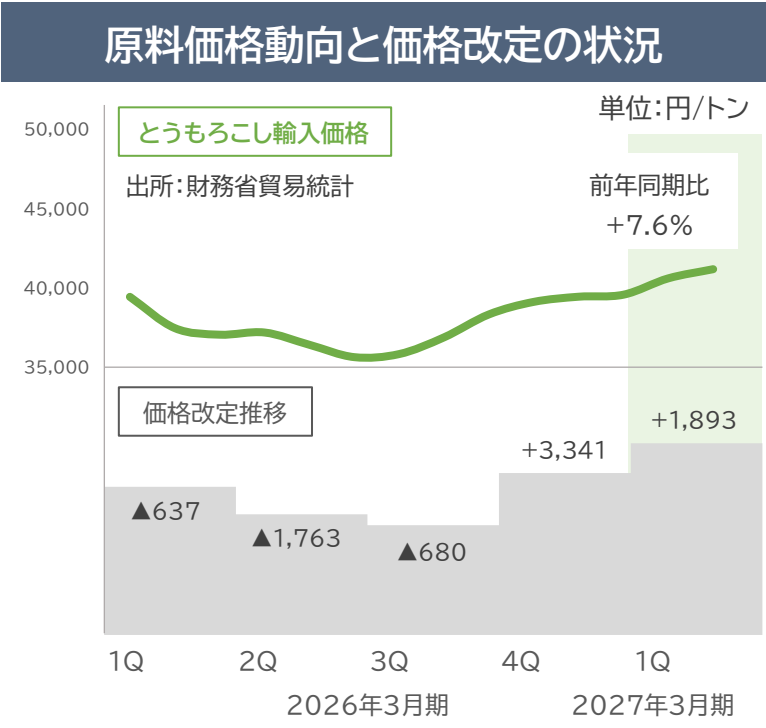
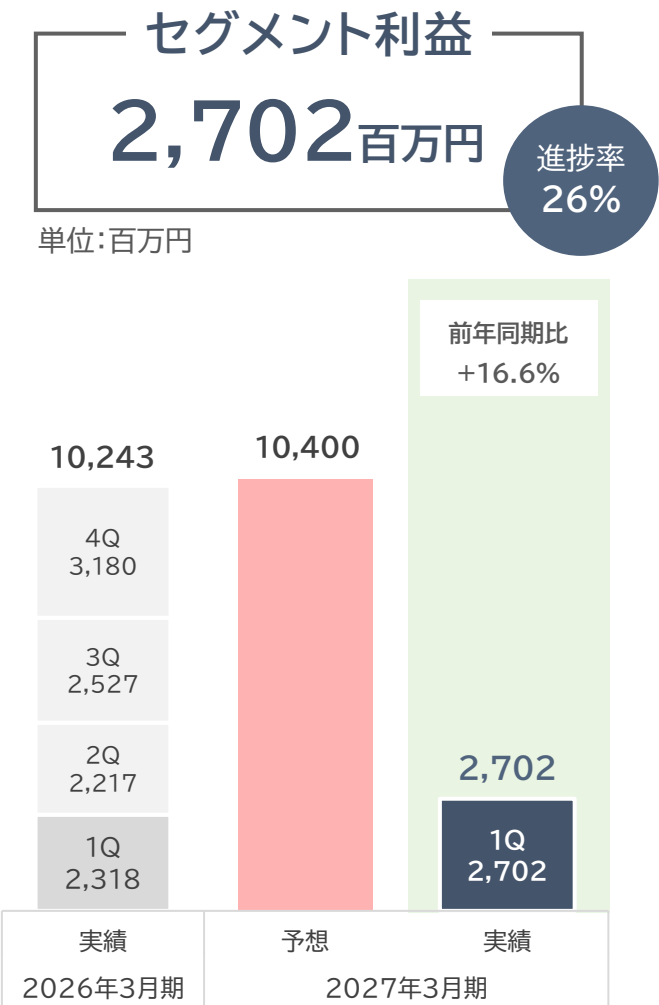
全ての報告セグメントで増収。畜産飼料事業と食品事業の増益が水産飼料事業の減益をカバー

(百万円)

セグメント		2026年3月期	2027年3月期			
		1Q	1Q	増減額	前年同期比	通期予想 進捗率
畜産飼料事業	売上高	56,415	59,012	+2,597	+4.6%	24.6%
	セグメント利益	2,318	2,702	+384	+16.6%	26.0%
	EBITDA	2,981	3,416	+435	+14.6%	25.9%
水産飼料事業	売上高	5,208	7,818	+2,609	+50.1%	25.2%
	セグメント利益	302	210	▲92	▲30.4%	14.0%
	EBITDA	442	361	▲80	▲18.2%	17.2%
食品事業	売上高	10,345	11,610	+1,264	+12.2%	25.2%
	セグメント利益	▲14	110	+124	—	36.7%
	EBITDA	44	168	+123	+277.6%	33.7%
その他/調整額	売上高	3	1	▲1	▲40.5%	—
	セグメント利益	▲743	▲663	+79	—	—

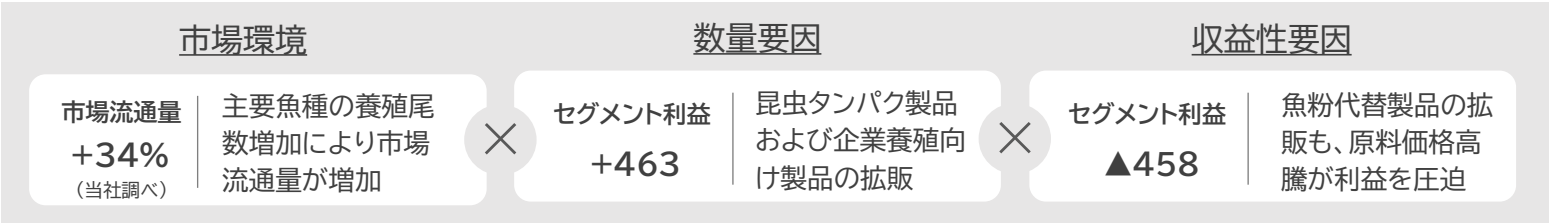
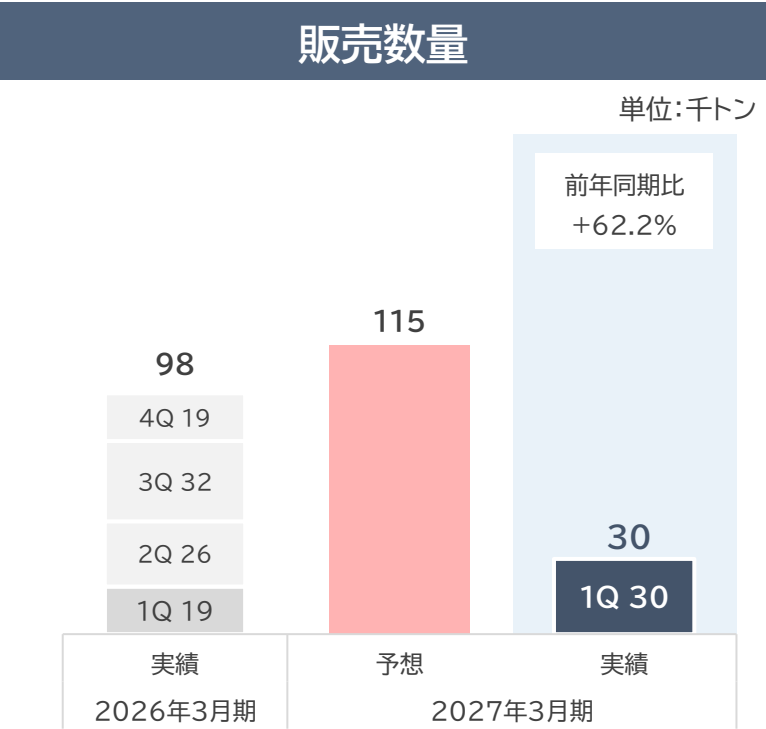
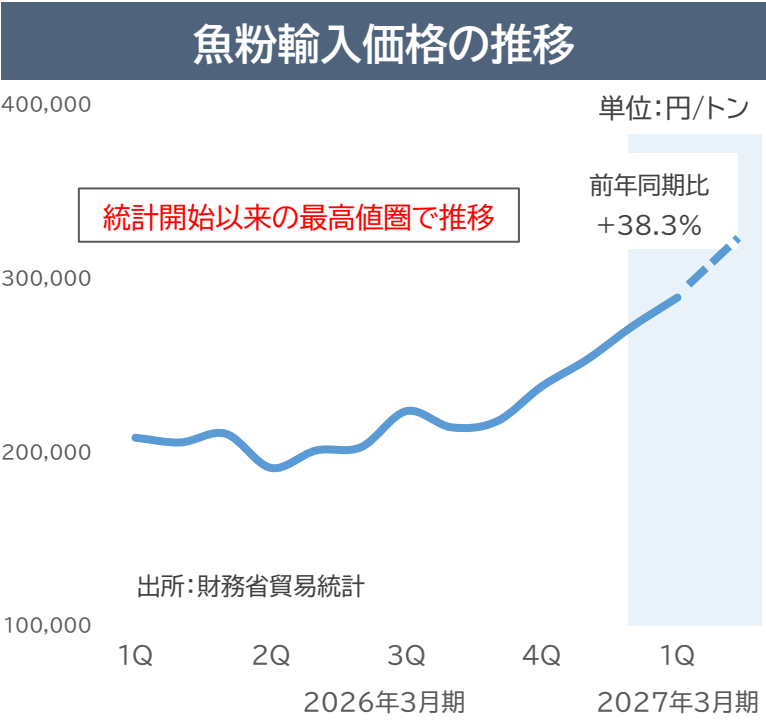
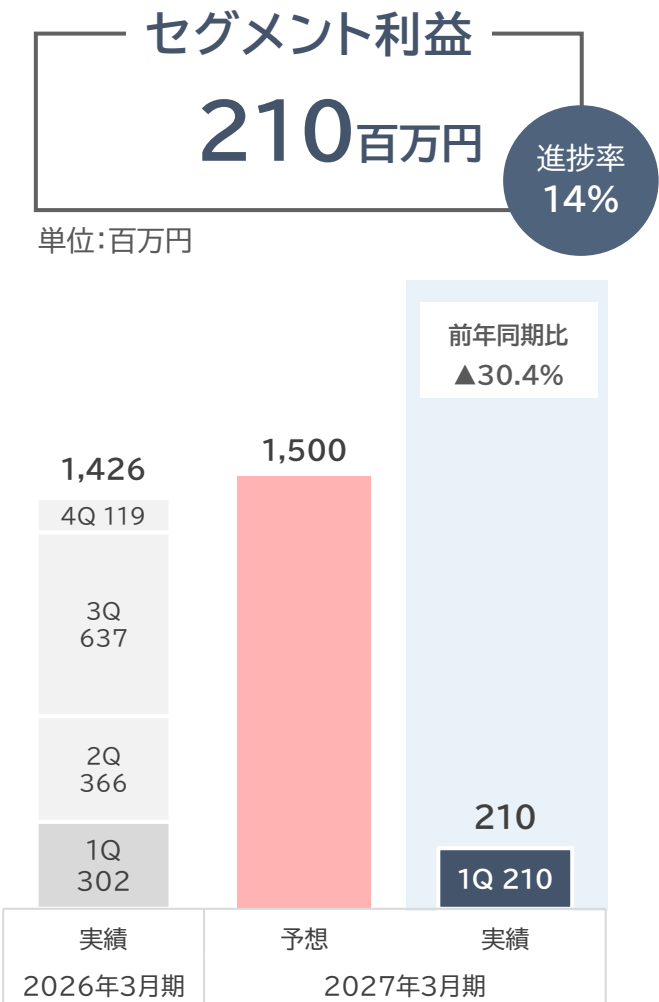
※セグメント利益：経常利益ベース
※EBITDA：経常利益+支払利息－受取利息+減価償却費及びのれん償却費
※その他＝海外事業及び不動産賃貸事業等、調整額＝報告セグメントに含まれない損益

販売数量を維持しながら、収益性重視の販売戦略の浸透が進み増益



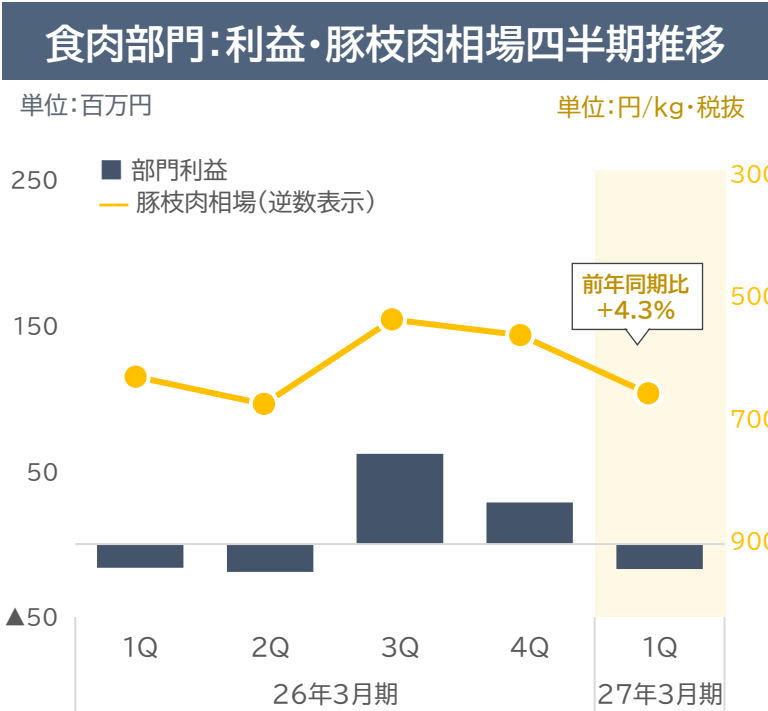
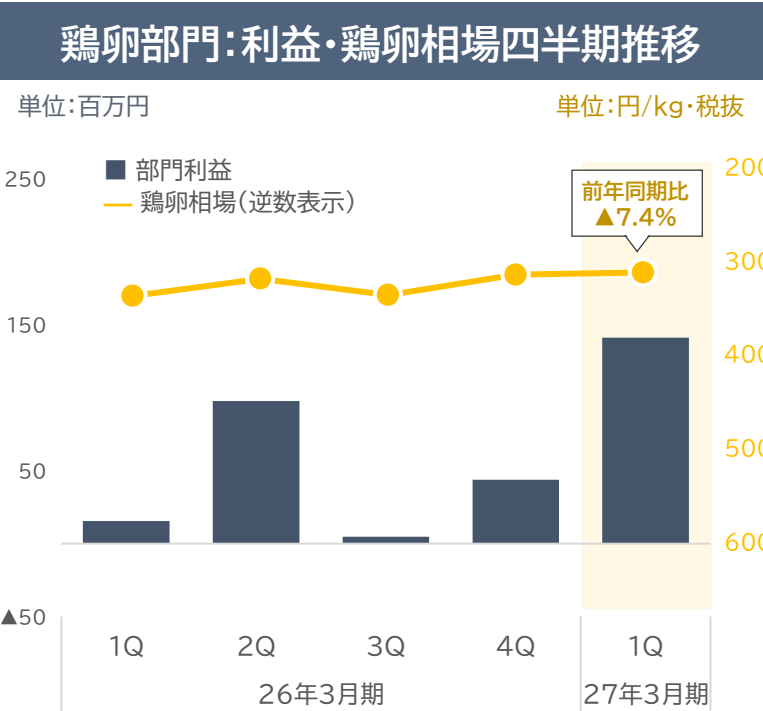
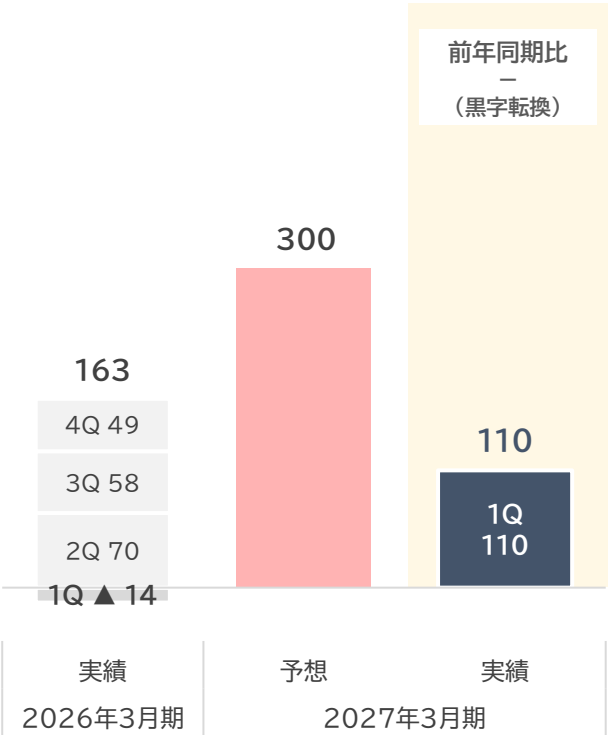
※セグメント利益増減要因には記載項目以外の影響も含まれるため、差額と一致しません

魚粉価格が最高値圏で推移したことにより減益も、魚粉代替製品の拡販など成長戦略は着実に進展



※セグメント利益増減要因には記載項目以外の影響も含まれるため、差額と一致しません

価格条件の見直しや、マジックパール(株)の新工場の安定稼働等により増益

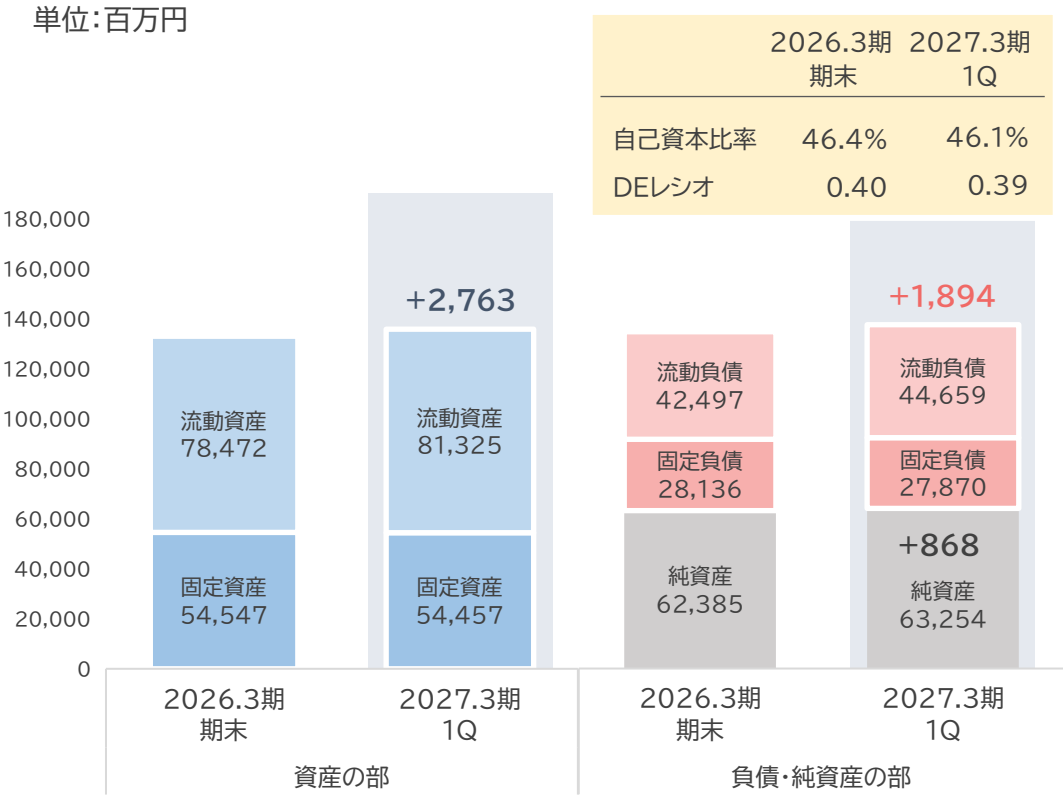


鶏卵部門		食肉部門	
セグメント利益 +125	鶏卵相場が前年同期比で低下したことに に加え、マジックパール(株)の新工場(注1) の安定稼働により増益	セグメント利益 ▲1	豚枝肉相場は供給減少を背景に高値が 続いたものの、価格条件の見直しによ り前年同期並み

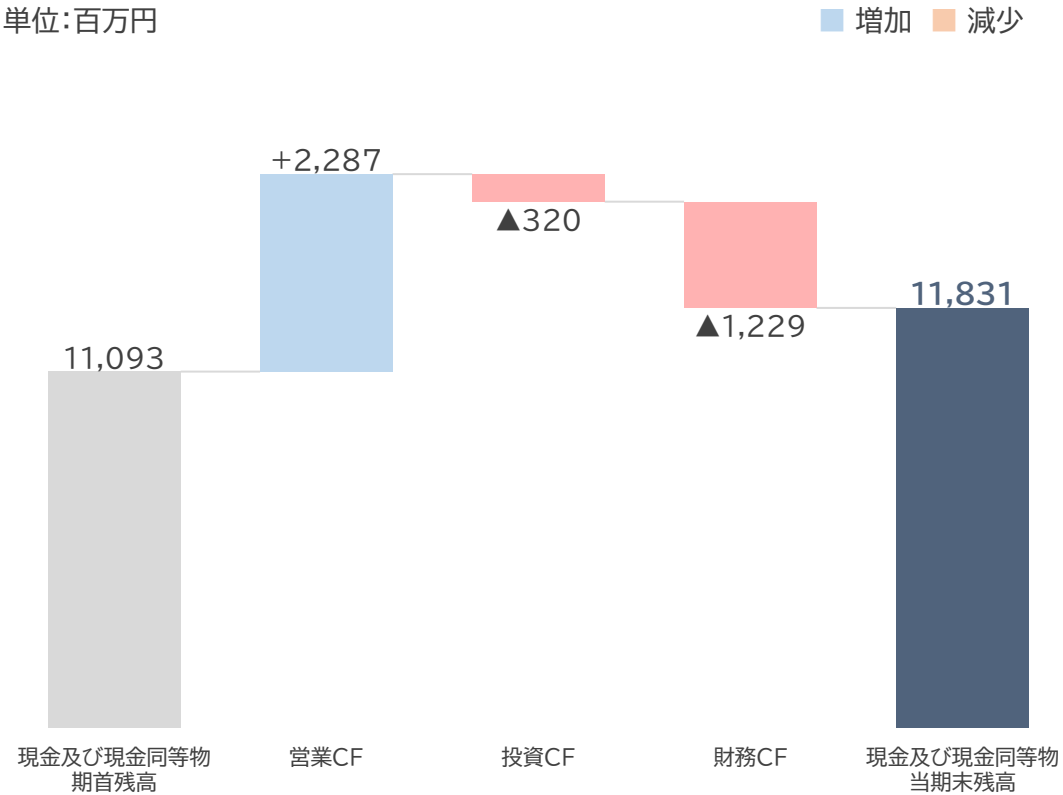
注1)2025年3月にマジックパール(株)にて新工場が稼働

営業CFを着実に創出し現金増加、財務健全性も維持

連結貸借対照表



連結キャッシュ・フロー計算書



売上拡大に伴い運転資本は増加するも、財務健全性は維持

※自己資本比率=自己資本/総資産 ※DEレシオ=有利子負債/自己資本



営業CFを着実に創出し、現金及び現金同等物は737百万円増加

現時点で概ね想定通りに進捗しており、業績予想に変更はありません

(百万円)

	2027年3月期				
	期初予想 (5月8日開示)	1Q		直近予想 (7月30日開示)	期初予想比
		実績	進捗率		
売上高	317,000	78,443	24.7%	317,000	-
売上原価	281,600	69,818	-	281,600	-
売上総利益	35,400	8,625	24.4%	35,400	-
販管費	26,900	6,484	-	26,900	-
営業利益	8,500	2,140	25.2%	8,500	-
経常利益	8,800	2,360	26.8%	8,800	-
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,500	1,761	27.1%	6,500	-

2Q予測



水産飼料事業は魚粉価格高止まりの影響が継続する見込み。
一方で畜産飼料事業における収益性改善が全社業績を下支え

畜産飼料事業



市場：円安やエネルギーコスト上昇も原料価格は軟調見込
利益：暑熱対策飼料の拡販等で収益性改善を継続

水産飼料事業



市場：魚粉価格は依然として高騰。赤潮や高水温懸念あり
利益：魚粉代替製品(無魚粉飼料等)の拡販に注力
10月に今期2度目の価格改定を予定

食品事業



市場：暑熱による畜産物供給減少に伴う相場高騰懸念
利益：鶏卵部門の採算を維持し、食肉部門の黒字化を図る

[トピック]株主・投資家との対話強化に向けた主なIR活動

株主・投資家との対話強化に向け、当第1四半期に以下のIR活動を実施しました



2026.5.19

通期決算説明会開催



資料はこちら



2026.6.19

定時株主総会開催



資料はこちら



2026.6.26

企業調査レポート公開



資料はこちら



第1四半期中

1on1ミーティング

2026.3期
第1四半期

3件



2027.3期
第1四半期

16件

いずれのQRコードもリンクになっております

參考資料



会社概要

会 社 名		フィード・ワン株式会社
所 在 地		神奈川県横浜市西区みなとみらい五丁目1番2号
代 表		庄司 英洋
設 立		2014年10月1日
資 本 金		100億円
従 業 員		935名（2026年3月31日現在／連結）
筆 頭 株 主		三井物産株式会社（持株比率／25.6%）
事 業		配合飼料の製造・販売、畜水産物の仕入・販売・生産・加工等 上記に付帯関連するその他事業（農場の経営指導、家畜診療施設の運営等）



代表取締役社長

庄司 英洋

PURPOSE(企業理念)

飼料で食の未来を創り、命を支え、笑顔を届ける

配合飼料の製造・販売から農場・食品まで事業領域とし、日本の「おいしさのみなもと」を創造しています

子会社 16社

● 飼料販売会社

北海道フィードワン販売(株)
道北協同飼料販売(株)
東北フィードワン販売(株)
関東フィードワン販売(株)
北九州フィードワン販売(株)
南九州フィードワン販売(株)

● 飼料製造会社

志布志飼料(株)

● 農場会社

(有)グリーンファームソーゴ
(株)第一原種農場
(株)南部ファーム

● 食品会社

マジックパール(株)
フィード・ワンフーズ(株)
(株)横浜ミート
ゴールドエッグ(株)

● その他

(有)いわき中央牧場
南洋漁業(株)

持分法適用会社 11社

● 飼料販売会社

(株)北海道サンフーズ

● 飼料製造会社

釧路飼料(株)
仙台飼料(株)
鹿島飼料(株)
平成飼料(株)
八代飼料(株)
マルイ飼料(株)

● 農場会社

(株)美保野パーク

● その他

KYODO SOJITZ FEED COMPANY LIMITED
NIPPAI SHALIMAR FEEDS PRIVATE LIMITED
門司港サイロ(株)

畜産飼料事業セグメント

水産飼料事業セグメント

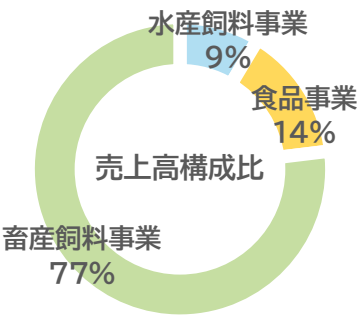
食品事業セグメント

その他セグメント

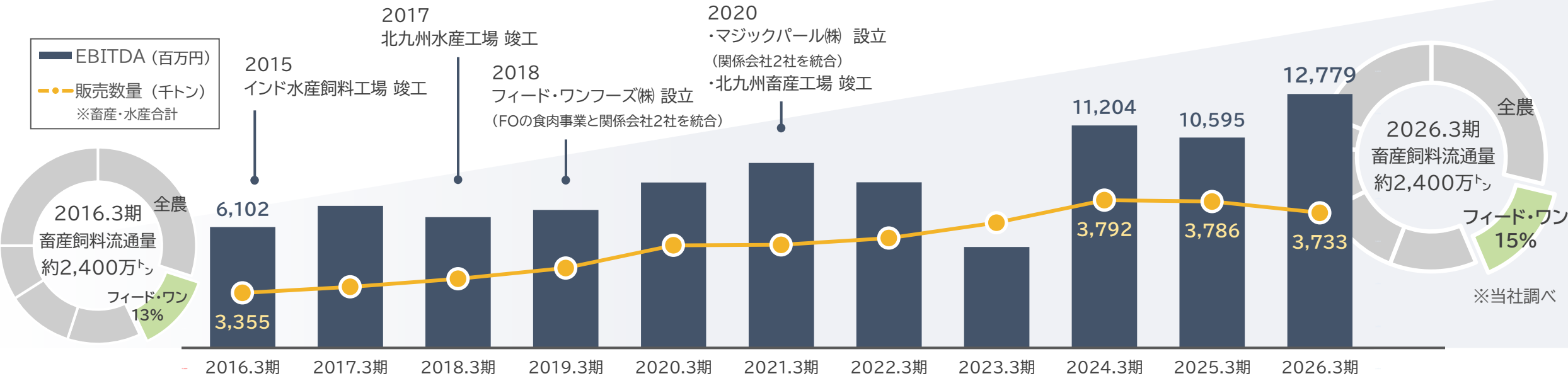
2026年3月期業績

売上高 **2,906**億円
経常利益 **86**億円

販売数量 **373**万ト
ROE **11.0**%



主力事業は畜産飼料であり売上高の約8割を占めています
水産飼料は約1割に留まりますが、市場規模の違い(畜産の約6分の1)に起因しています



飼料の安定供給という使命のもと、社会の要請に応える製品を創出し、企業価値を向上します

第2フェーズ - 2025.3~2034.3期 -

～継続的収益力の強化と生産体制の刷新・増強～

第1フェーズ
2016.3~2024.3期

統合による
事業基盤の確立

経営統合

EBITDA
61億円→112億円
(2016.3期) (2024.3期)
販売数量
336万ト→379万ト
(2016.3期) (2024.3期)

1stステージ

2025.3~2027.3期

EBITDA 115億円
ROE 8%以上
ROIC 6%以上

(2027.3期
中期経営計画)

2ndステージ

2028.3~2030.3期

3rdステージ

2031.3~2033.3期

総投資額 約600億円
(2025.3~2030.3期)

総投資額 約800億円
(2025.3~2034.3期)

2034.3期

畜産飼料市場シェア

販売数量 20%以上
EBITDA 160億円以上
ROE 10%以上
ROIC 8%以上

収益構造はコア事業である畜産飼料事業の影響が大きく、売上高は業績の指標とはなりません

〔売上高〕 輸入原料価格の変動に応じ販売価格を見直し

- 畜産飼料は四半期に1度、輸入原料価格の変動に応じた販売価格の見直し(価格改定)が行われます
- 売上高は価格改定の影響を大きく受けるため業績の指標とはなりません

〔売上原価〕 売上原価の大半を原料費が占める

- 配合飼料の売上原価の大半を原料費が占めています
- 原料費の8割以上が輸入原料となるため輸入原料の価格変動は売上原価に直結します

〔販管費〕 配合飼料価格安定制度積立金を計上

- 輸入原料価格の急激な価格上昇が畜産生産者の経営に及ぼす影響を緩和する制度です
- 国、メーカー、生産者が基金を積み立てており、条件を満たした際に生産者に補填金が拠出されます
- 積立金は税務上販管費への計上が認められており、2026年3月期は約65億円を計上しました

売上高

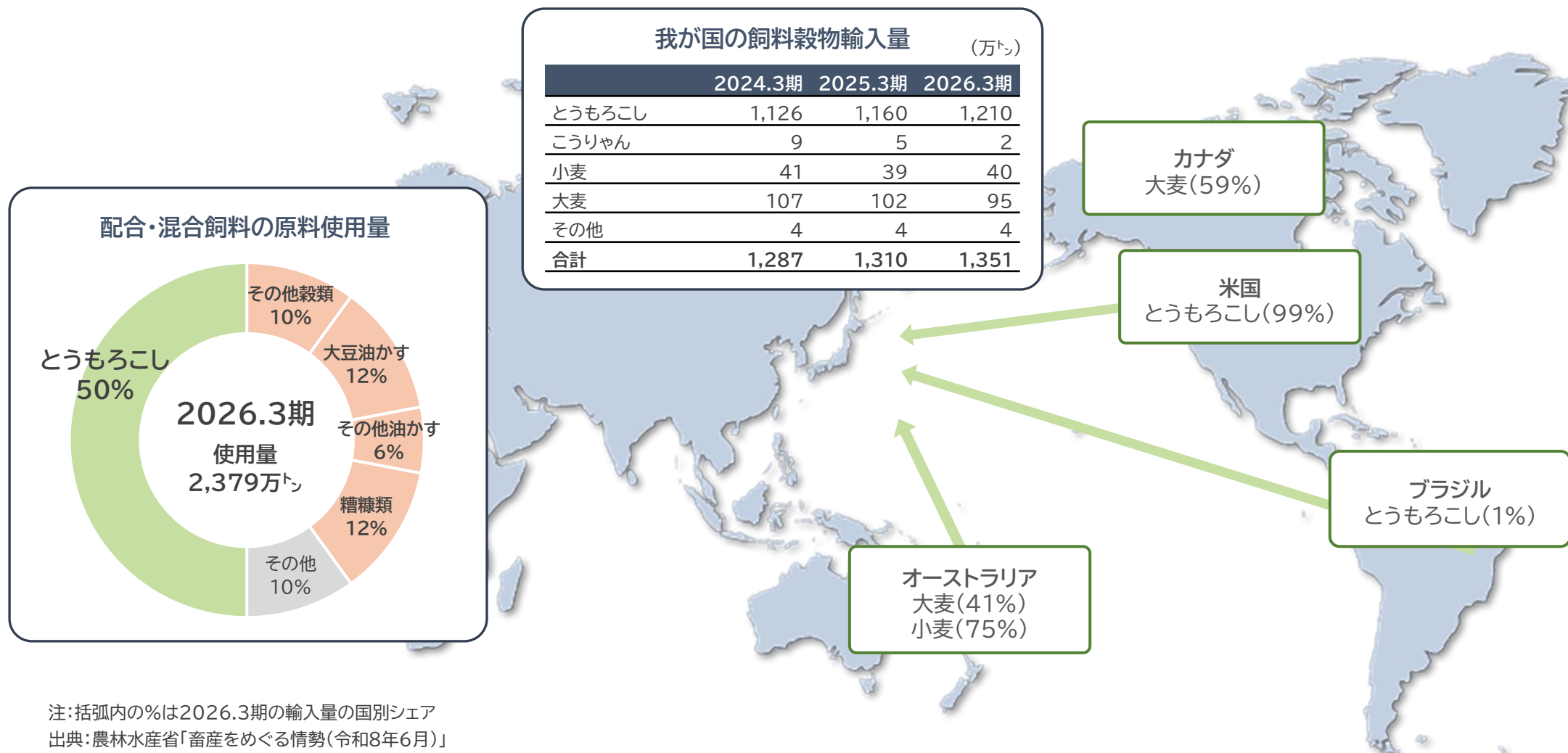
売上原価

販管費

営業利益

畜産飼料事業は輸入原料の価格変動に応じ販売価格の改定を行うため、一時的な変動はあるものの、利益は比較的安定しています

飼料穀物のほとんどは輸入に依存しており、特に、米国・オーストラリアに大きく依存しています

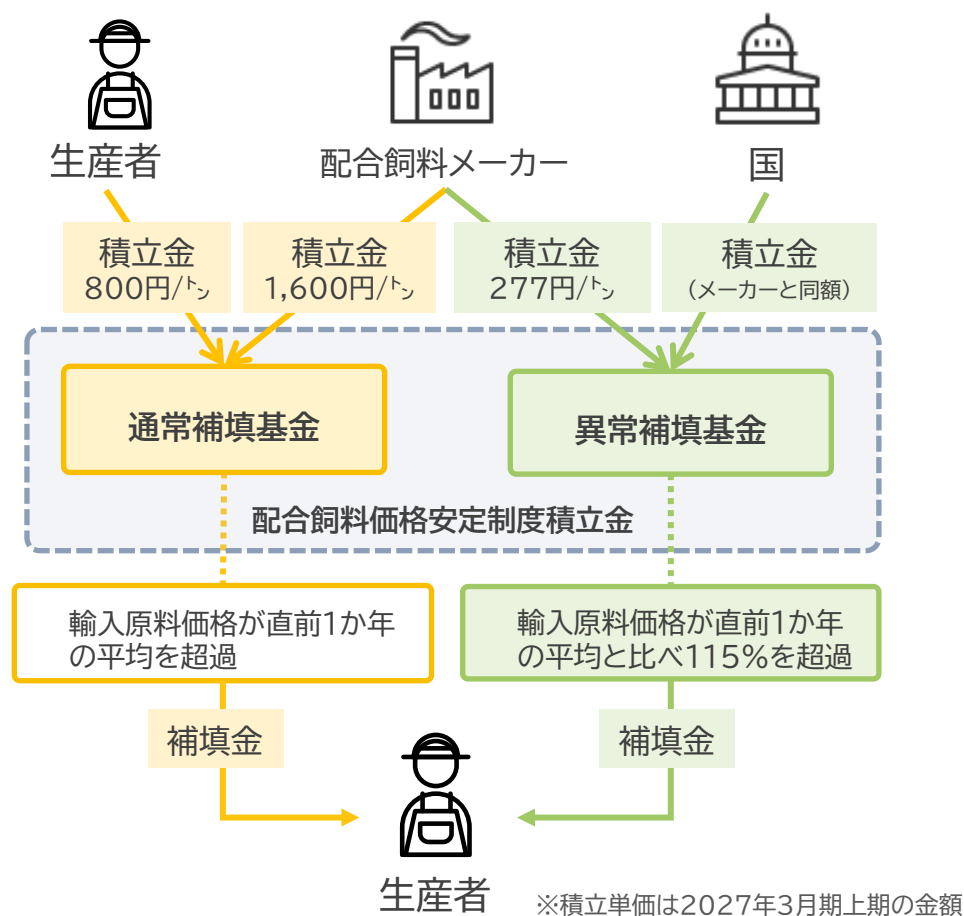


輸入原料の急激な価格上昇が畜産生産者の経営に及ぼす影響を緩和する制度です（※畜産飼料のみ）



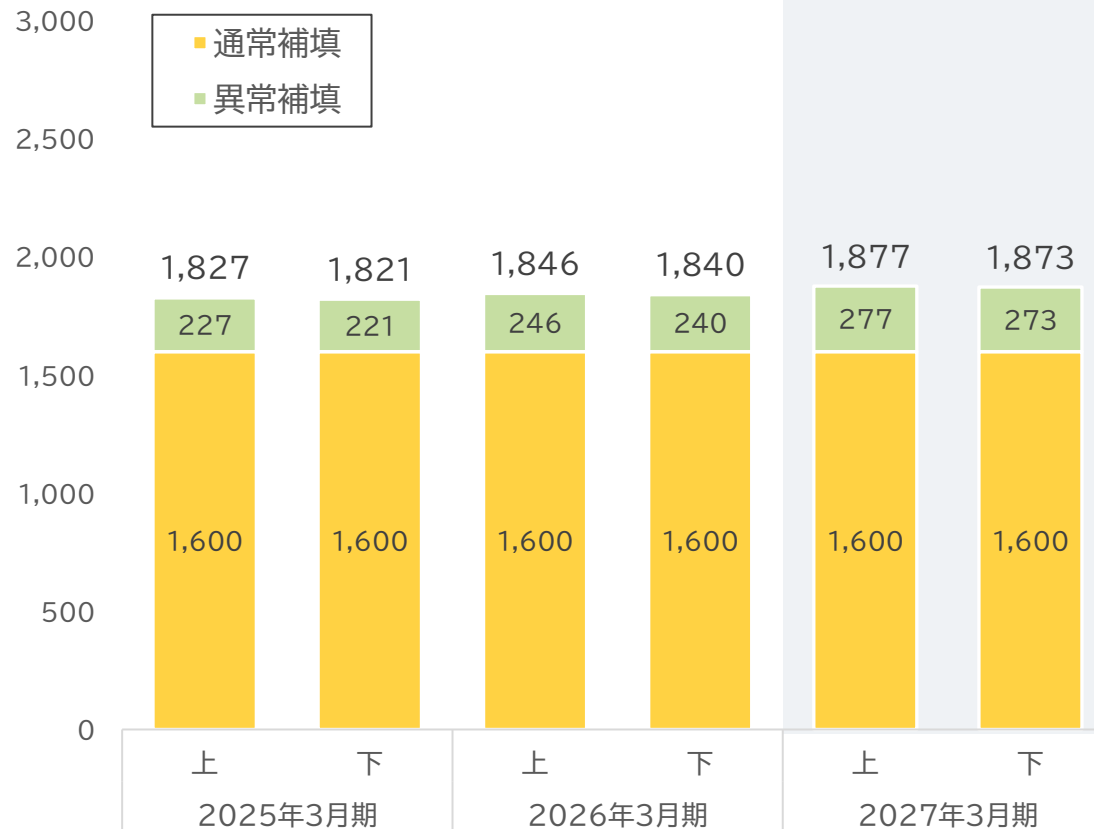
詳しくはこちら

〔 制度の仕組み 〕

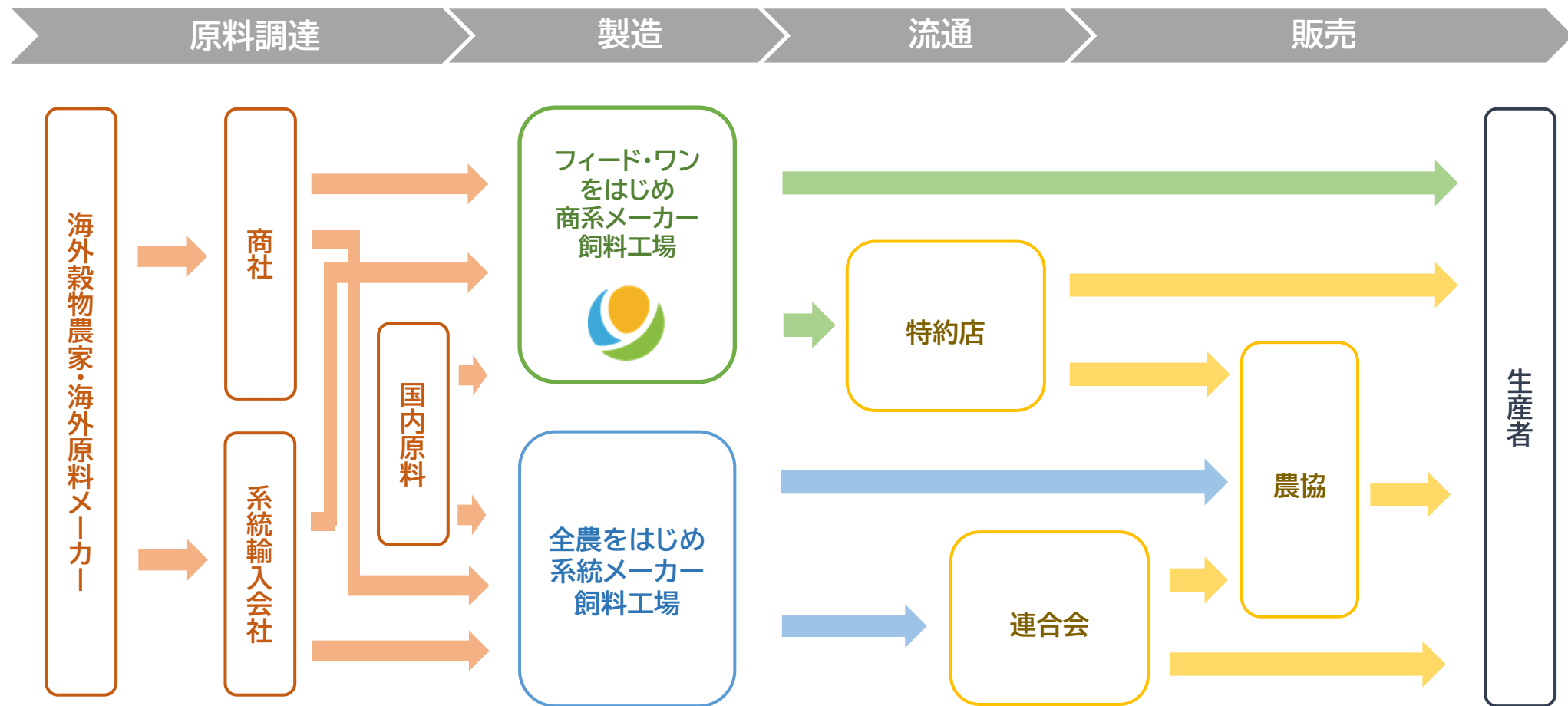


〔 積立金(配合飼料メーカー) 〕

単位:円/ト



飼料工場から生産者までの商流は、「メーカー直販」「特約店経由」「農協経由」等が存在します



フィード・ワン
IR情報 トップ



<https://www.feed-one.co.jp/ir/>

フィード・ワン
統合報告書2025



https://www.feed-one.co.jp/ir/integrated_report/

フィード・ワン
企業調査レポート



https://www.feed-one.co.jp/ir/sponsored_research_report/

本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではありません
また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おきください

<IRに関するお問い合わせ>

おいしさのみなもと



財務経理部 IR・財務企画課

E-mail : ir@feed-one.co.jp

Webサイト : <https://www.feed-one.co.jp/>

